

第2章

農山漁村体験活動がもたらす教育効果

2-1. 教員が実感している教育効果

農山漁村体験活動を実施している学校の教員へのアンケート調査で、児童生徒への教育効果として挙げられていた回答を紹介します。 ※株式会社野村総合研究所による調査（平成30年度）

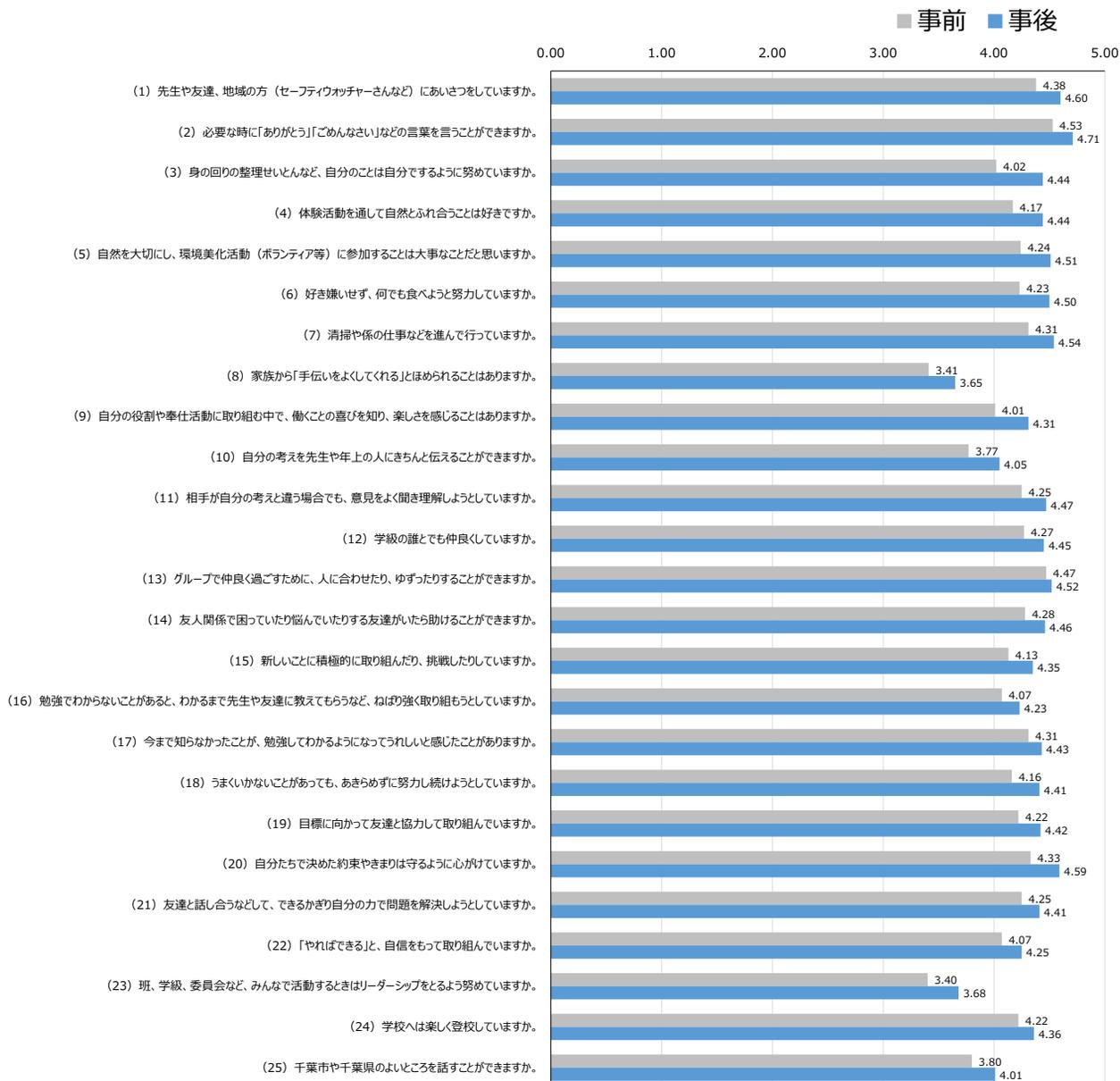
教育効果※	具体的な効果	効果に影響のあった体験プログラム
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> 多様な集団活動を取り入れることで、問題解決に向けてのコミュニケーション能力が伸びた。 	<ul style="list-style-type: none"> ナイトハイク 野外調理
自主性・自立心	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで時間を決めて体験活動を行うことで、自ら時間を守り、行動する力が伸びた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画づくり
マナー・モラル	<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識して行動するようになった。 相手の立場に立って考えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の家や民宿等での共同生活
児童の学習意欲等	<ul style="list-style-type: none"> 地域漁業に触れたことで、職業理解が図られ、漁業に関する興味・関心及び学習意欲が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 定置網実習
食育	<ul style="list-style-type: none"> 米の生産について、体験を通して学ぶとともに、自分たちが植えた米を使った餅を食べることで食べ物と生産者の関係について考えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 田植え 米を使った餅つき（事後学習）
環境教育	<ul style="list-style-type: none"> 地元と活動先の水質の違いに興味を持ち、環境問題への関心が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 川の自然探索ハイキング 水質調査・研究（事後学習）
体力	<ul style="list-style-type: none"> 事前の体力づくりと併せて、登山やハイキング等、普段より長い距離を歩くことにより、体力の向上が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 登山 ハイキング
人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> グループのメンバーと協力して活動することにより相互理解が進み、人間関係が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> キャンプファイヤー 野外調理
地域に関する理解	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に受入地域や農村漁村の生活について調べる姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 民泊体験 太巻き寿司作り 千枚田の観察

※ 文部科学省が実施した「農山漁村での宿泊体験による教育効果の評価について」を基に、更に「体力」と「地域に関する理解」を追加した9分類で、教育効果を整理しました。

2-2. 児童生徒が実感している教育効果

千葉市教育委員会による調査結果

農山村留学の事前－事後の変化（平成29年度・小学6年生）



※ 農山漁村体験活動に参加した児童が、実施前後の2回、回答する。
 回答の選択肢を、「とてもよくあてはまる」～「まったくあてはまらない」の5段階として肯定的な回答順に
 5点～1点の点数をつけ、項目ごとに平均を求めた。

全ての実施校で質問内容に対して肯定的な回答であり、全ての項目で事前調査を上回る結果となっています。また、伸び率でみると、特に6年生に期待される(3)「身の回りの整理整頓を含む自分のことは自分で行う」、(9)「働くことの喜びを知り、楽しさを感じる」、(10)「自分の考えを目上の人に伝える」等において意識の変容が大きく、ねらいに即した体験活動を工夫することで、体験学習の効果を高めていることが分かります。

出典) 体験学習の手引(千葉市教育委員会)

2-3. 長期間の実施に伴う教育効果

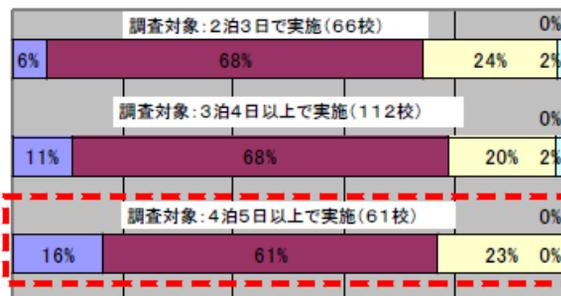
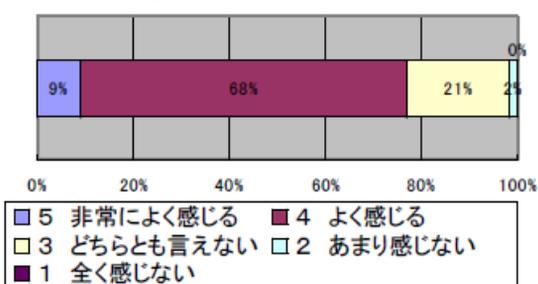
文部科学省による調査結果

文部科学省「農山漁村での長期宿泊体験による教育効果について」では、平成20年度に農山漁村体験活動を実施した学校178校の教員を対象に行った、教育効果についてのアンケート調査の結果が記載されています。その結果、実施期間2泊3日の学校と比較すると、3泊4日以上の方がより高い反応を示す項目が目立っていました。

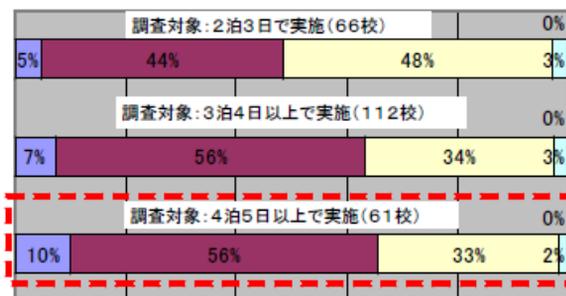
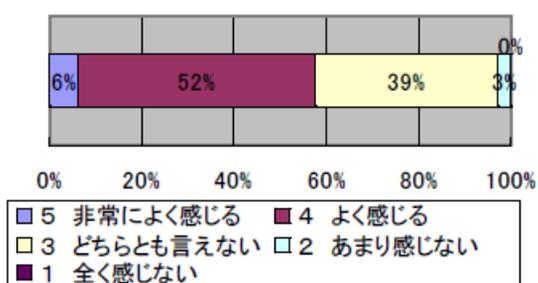
この理由について、「教員の指導を受けながら生活の仕方を学んだりすることに2日ぐらいが必要であり、3泊目以降になると自分たちの力で生活せざるを得ない場面が出てくるのが想定され、効果に大きな違いが出てきた可能性がある」と述べられています。

農山漁村体験活動による教育効果について 教員アンケート結果（平成20年度）

① 児童が相手の言うことをよく聞き、相手の立場を考えるようになった。
(調査結果)



② 身の回りの整理整頓など、自分のことは自分でする姿勢が身についた。
(調査結果)



出典) 農山漁村での長期宿泊体験による教育効果について (文部科学省)
<http://www.niye.go.jp/youth/book/files/items/79/File/nousanngyo.pdf>

2-3. 長期間の実施に伴う教育効果

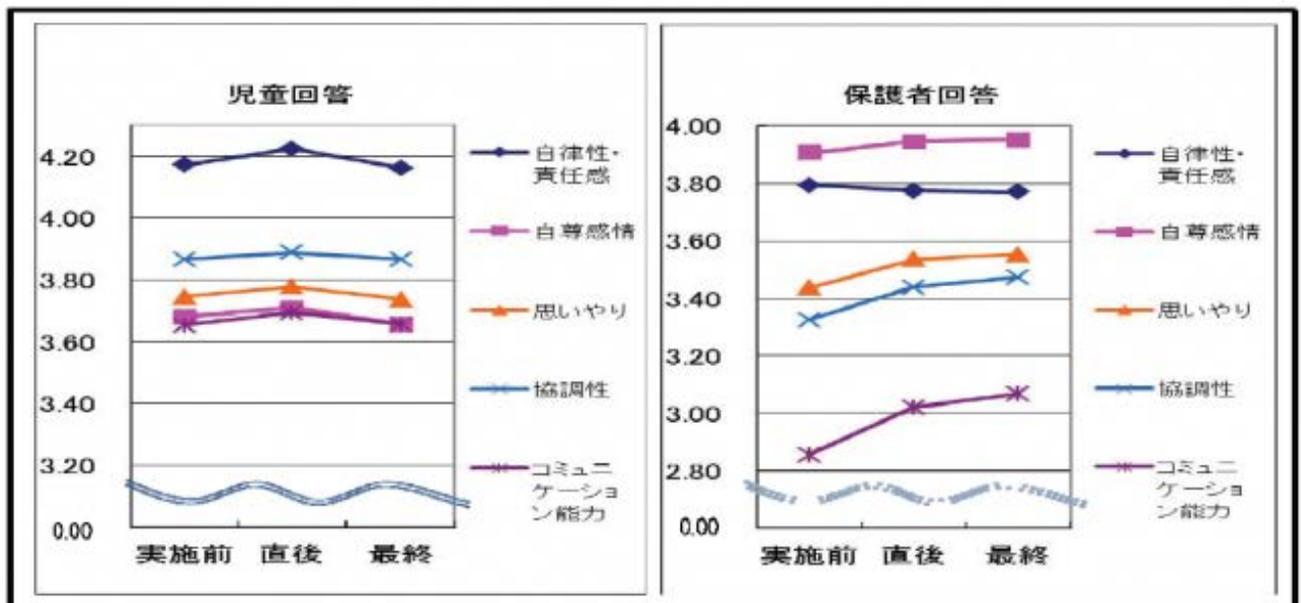
広島県教育委員会による調査結果

広島県教育委員会では、児童の道徳性等の育成に関する事業効果を評価・検証するため、推進校の児童、及び保護者を対象として、質問紙によるアンケート調査を体験活動の実施前・直後及び最終（実施から1か月以降）の計3回実施しています。

児童の回答では、体験活動実施前と比べて直後は全項目平均値は0.04上昇しているが、体験活動から1か月以降の全項目平均値が実施前と同じ値になりました。

また、保護者の回答では、体験活動実施前を比べて、直後は全項目平均値は0.08上昇、体験活動から1か月以降の全項目平均値は0.10上昇しました。

児童の変容（児童回答と保護者回答）（平成28年度）



※ 回答の選択肢を、「とてもよくあてはまる」～「まったくあてはまらない」の6段階として肯定的な回答順に5点～0点の点数をつけ、項目ごとに平均を求めた。

出典)「山・海・島」体験活動 3泊4日の効果(平成28年度)(広島県教育委員会)
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/yamaumi/hogosya2-h28.html>

2-3. 長期間の実施に伴う教育効果

武蔵野市の取組：セカンドスクール

武蔵野市教育委員会は、市立小学校5年生と市立中学校1年生を対象に、自然豊かな農山漁村に長期宿泊を行う教育活動（セカンドスクール）を進めています。

セカンドスクールのねらいは、「長期にわたる宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識・技能を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てます。」としています。

対象学年	活動日数
小学5年生	6泊7日 または7泊8日
中学1年生	4泊5日

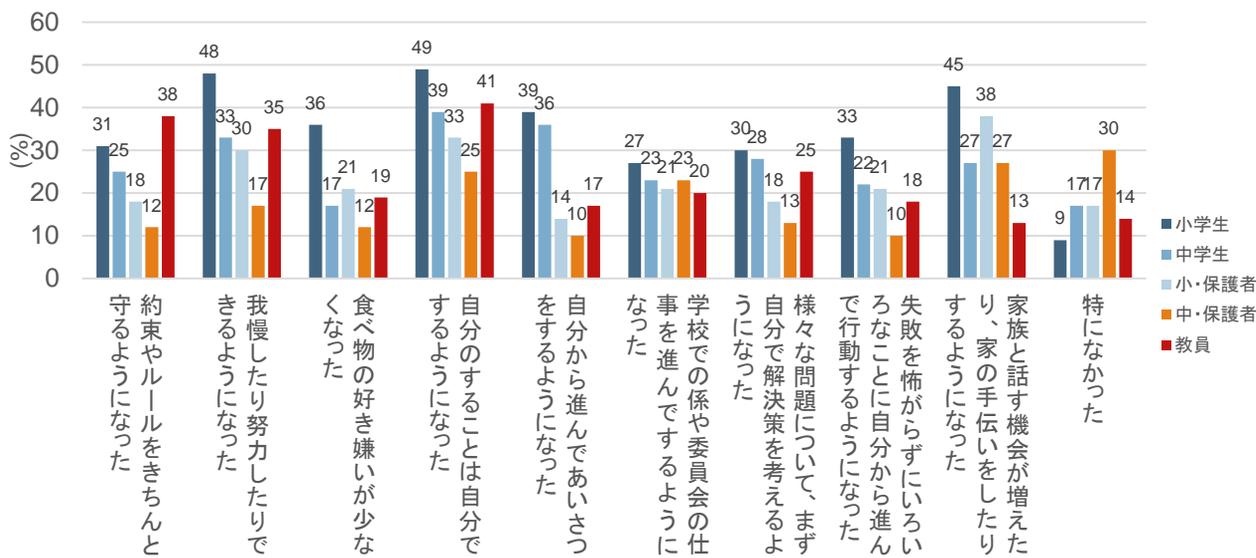
セカンドスクールによる教育効果

小学生では、「自分のことは自分できるようになった」、「我慢したり努力したりできるようになった」、「家族と話す機会が増えたり、家の手伝いをしたりする」が半数近い回答率となっています。なお、小学生の保護者では「家族と話す機会が増えたり、家の手伝いをしたりする」の回答率が高くなっていました。

中学生では、「自分のことは自分できるようになった」の割合が高くなっています。中学生の保護者では「特になかった」という割合が、他と比べて高い傾向が見受けられます。

また、教員の回答では「自分のことは自分できるようになった」、「約束やルールをきちんとまもるようになった」の割合が高いことが分かっています。

長期宿泊（集団生活、生活自立・豊かな人間関係）に関する効果



*複数回答可